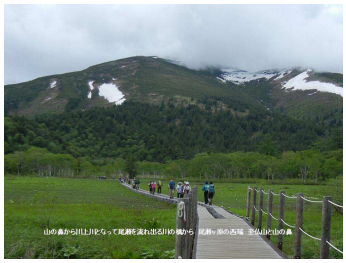
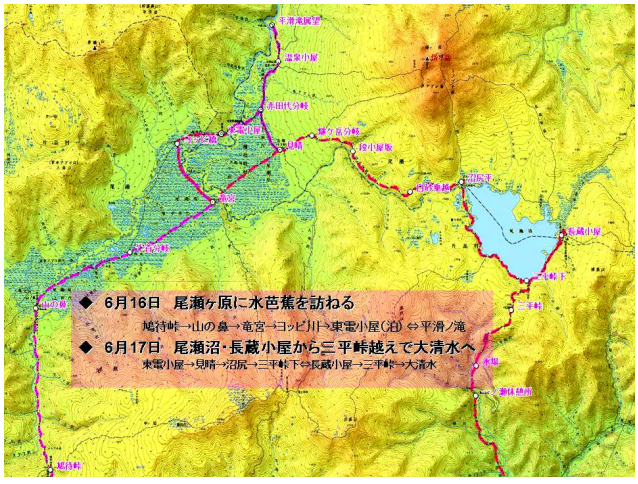
《スライド動画》 # 初夏の尾瀬ケ原・尾瀬沼を歩く

初夏６月　尾瀬の草花　2013.6.16.＆6.17.



東京へ出かけた機会に久しぶりに水芭蕉が見たくなって
尾瀬へいってきました。
水芭蕉の季節には少し遅かったのですが、梅雨時ながらラッキーなことに晴天に恵まれ、水芭蕉をはじめ、湿原に咲く初夏の数多くの草花に出会えました。
また、念願の尾瀬ケ原の中での小屋泊　ビールを飲みながらの夕景や朝もやの中刻々と変化する尾瀬の景色など尾瀬の中でのゆっくりとした時間もすごせて、満足の尾瀬歩きでした



東京での会で久しぶりに出かけた関東　時期的にはちょっと遅いのですが、尾瀬の水芭蕉が見たくなって、
6月16日未明　土砂降りの東京から上越新幹線「Maxたにがわ」で尾瀬への群馬側の入口　沼田・上毛高原へ
高崎を過ぎると上越国境には青空もみえる　以前同じような天候で尾瀬に入ると快晴だった　今日はラッキーと

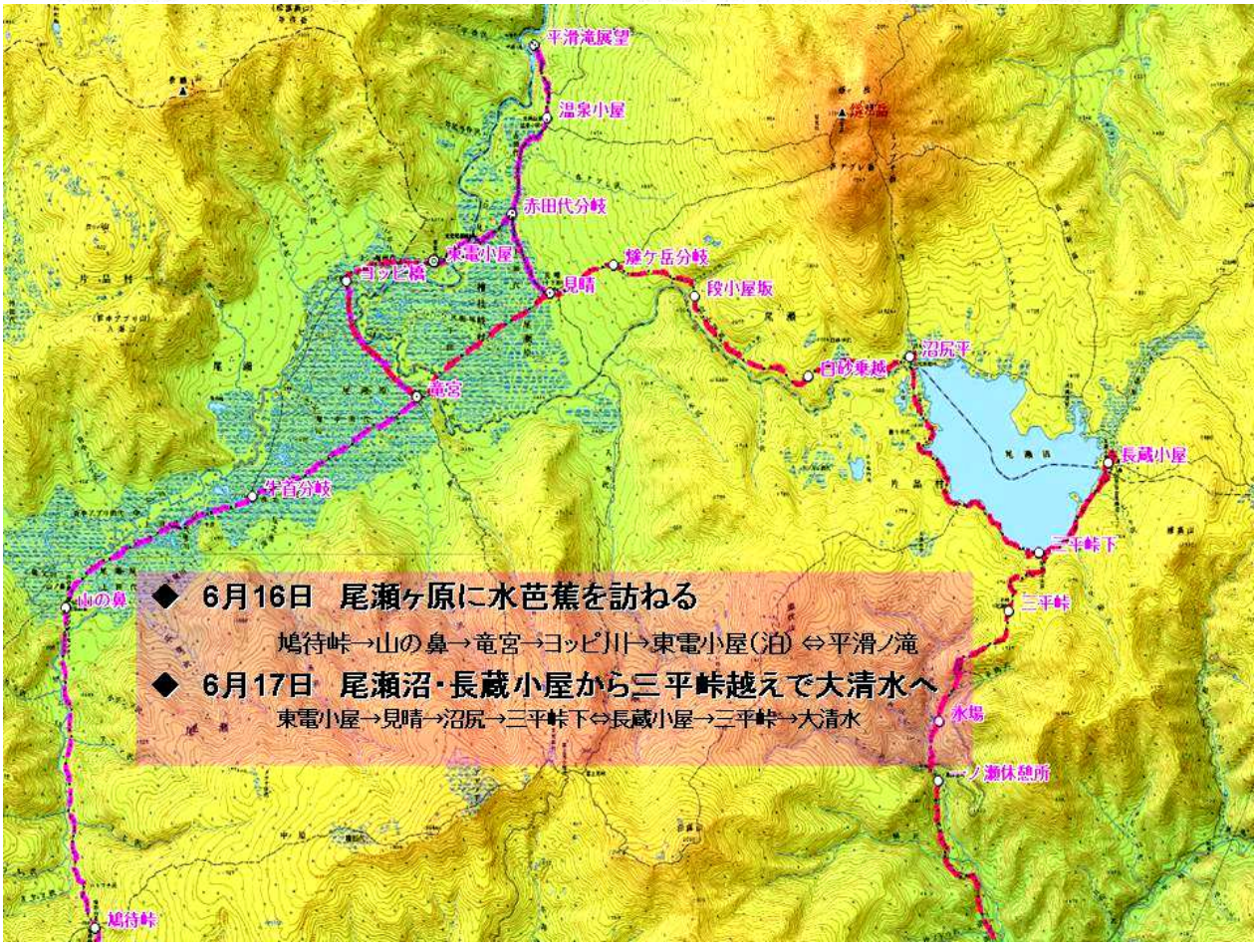
上越新幹線　トンネルを抜けると　上毛高原駅付近　車窓から眺める水上・沼田側　雲が切れて明るい

上越新幹線　上毛高原駅の朝　シーズンの日曜日早朝とはいえ、静かなもの　2013.6.16.

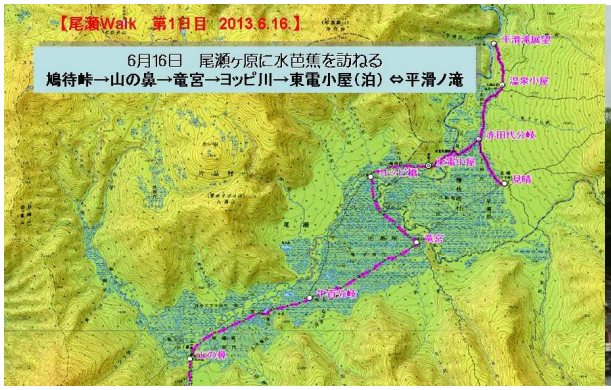
梅雨とはいえ尾瀬は観光シーズン　バスに乗れるかと心配でしたが、降り立った上毛高原駅・バスで通過した沼田駅も静かなも
尾瀬の群馬側登山口　片品村の戸倉や大清水まで　ここからまだ約2時間もかかる。
いずこも同じであるが、ツアーや登山客の多くは東京から直接登山口へ高速バス・ツアーバスやマイカーで向かう

上毛高原駅からバスで利根川に合流する片品川沿いの谷間を約2時間　遡って片品村戸倉鳩待峠バス連絡所へ

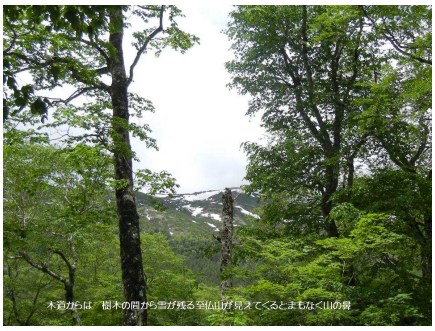
尾瀬への群馬側登山口のひとつ「大清水」へは　バスでさらに東へ15分遡る　　金精峠を越えて日光へ向かう街道筋。
現在多くの人が向かう鳩待峠は　群馬から尾瀬を経て会津へ向かう古くからの沼田街道の峠道
小型バスに乗換えて北へ約20分ほどである。
尾瀬の自然保護のため現在車道は鳩待峠でストップ　　一般車の鳩待峠への通行も遮断されている。
天候も回復してきたので、尾瀬をゆっくり楽しめそうなので、尾瀬ヶ原東電小屋の宿泊を予約し、鳩待峠へ



1.　6 月 16 日　尾瀬ケ原 Walk　尾瀬ケ原に水芭蕉を訪ねる



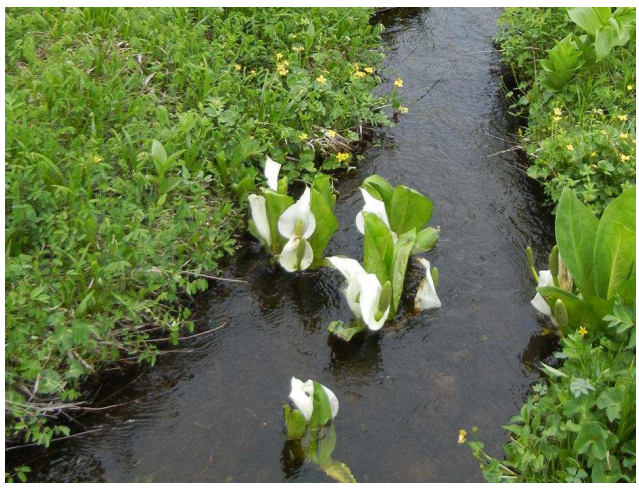
《　鳩待峠から　尾瀬ヶ原の西端　山の鼻へ　》



ツアーの人で一杯の　至仏山の山裾　尾瀬ヶ原の西の端「山の鼻」

久しぶりの尾瀬　残雪の至仏山が出迎えてくれる

《　山の鼻から　尾瀬が原の中央をまっすぐ東へ　木道を行く　》



山の鼻の湿原で水芭蕉に出会う　ちょっと時期が遅くもう　満開は過ぎて　大きな葉が目立つ

2013.6.16.

もう盛りは越えましたが　水芭蕉が　川沿いや湿原に咲いてしました
尾瀬ヶ原　山の鼻周辺で　　2013.6.16.

尾瀬ヶ原　山の鼻周辺　　水芭蕉の群生地で　　2013.6.16.

尾瀬ヶ原　山の鼻周辺　　水芭蕉の群生地で　　2013.6.16.

現在地
山の鼻から川上川となって尾瀬を流れ出る川の橋に出る
振り返ると残雪をいただく至仏山が堂々とした姿で座っている
この橋を渡ると　少し時期が遅いが　水芭蕉が咲く　広い上田代の湿原

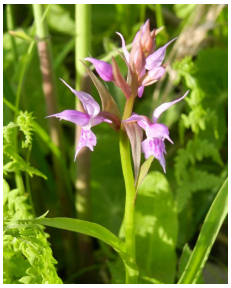
橋を渡ると正面の燧ケ岳まで　池塘・湿原が拡がる広大な尾瀬ヶ原の中をまっすぐ木道が伸びている
尾瀬ヶ原　上田代　2013.6.16.

《 尾瀬ケ原　上田代湿原　2013.6.16. 》

タテクリンドウ

ヒメシャクナゲ

レンゲツツジ



尾瀬ヶ原　上田代　2013.6.16.

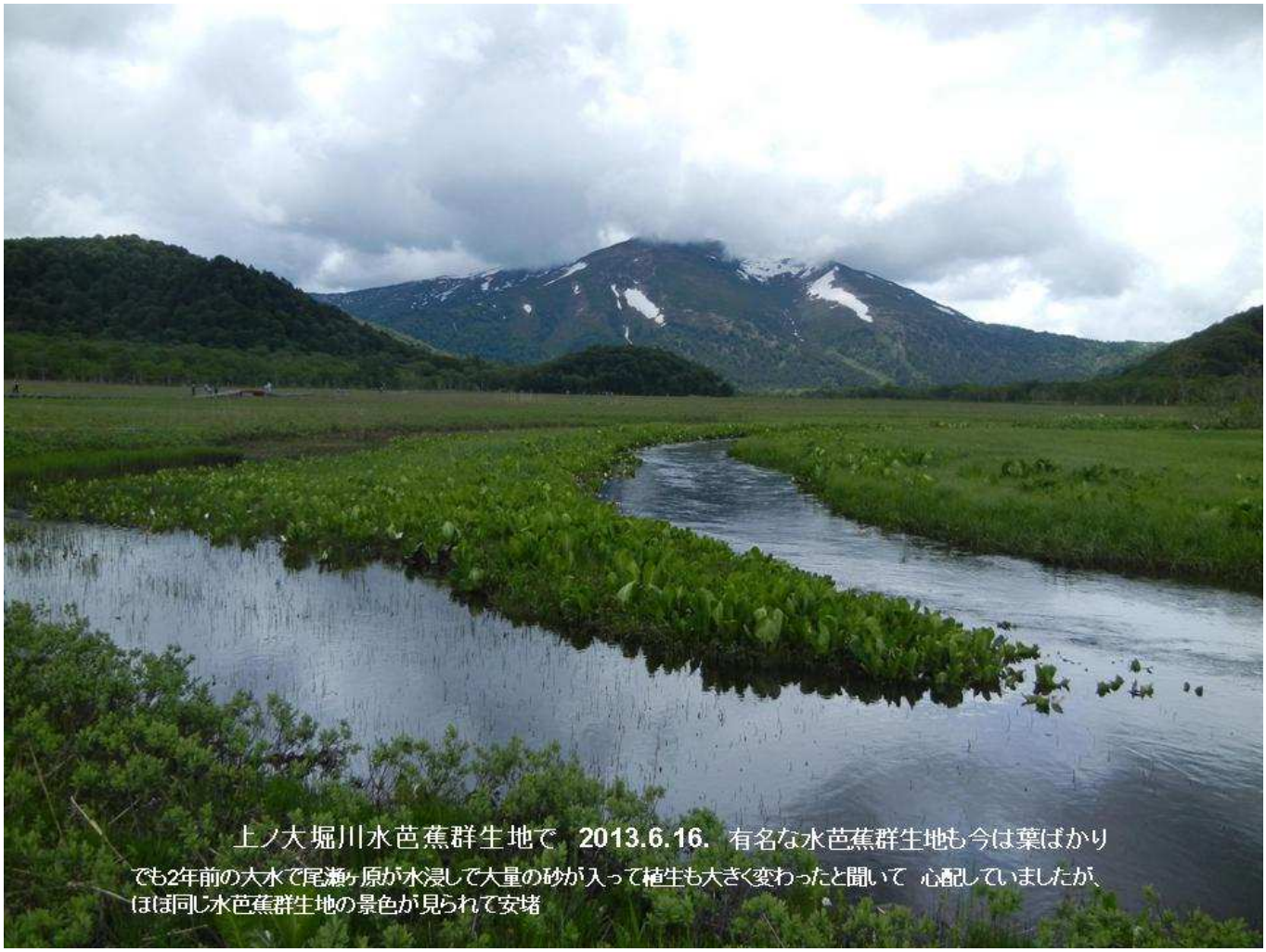
尾瀬ケ原の中央部では　どんどん人が減ってきて、山の鼻へ向かう人が多い

東京へその日のうちに帰りつくには　昼過ぎには　尾瀬ケ原を出ねばならないためか???

《　尾瀬ヶ原の北の縁沿いを流れるヨッピ川方面への分岐　牛首　》

雲が切れ　正面に燧ケ岳、振り返ると至仏山の山頂がくっきりと広々とした尾瀬ケ原の向こうに
山に向かって　人影が少なくなった尾瀬ケ原の中央を木道が伸び、静かな尾瀬ケ原が戻ってきた

《 尾瀬ケ原の中央　中田代の池塘群 》



水芭蕉は盛りを過ぎていましたが、レンゲツツジほか　今が盛りの花が数々
湿原歩きを楽しませてくれる

ワタスゲ

オゼタイゲキ

水芭蕉

タテヤマリンドウ

ヒメシャクナゲ

チングルマ

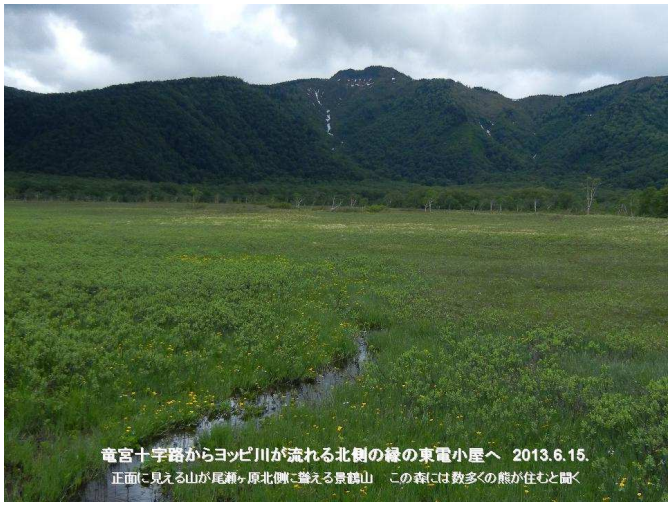
《　湿原を流れる川が地下に消えて伏流する伏流点　竜宮　》

13:00　《竜宮》の伏流口　　2013.6.16.
左右の川の合流点ですが、ここで川は地下にもぐり(伏流)、
木道の反対側一帯の湿原に噴出す「竜宮」の地名のいわれだと

竜宮周辺　中田代の水芭蕉　　2013.6.16.

ヨッピ川沿いの東電小屋へ向かう木道との分岐　竜宮十字路　奥に竜宮小屋の森が見える

《　竜宮十字路から左　ヨッピ川沿いの東電小屋へ向かう　》



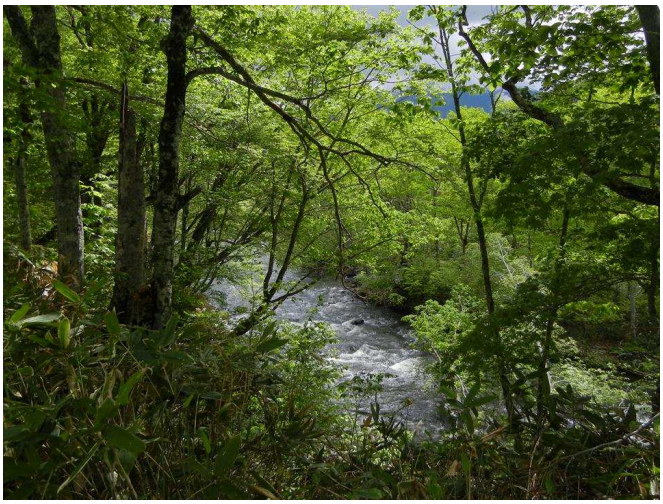
《　ヨッピ川　吊橋周辺 この橋の西側がヨッピ川　ここより東側は只見川となって東側　新潟へ流れてゆく　》

熊の多い景鶴山山麓周辺　木道の所々が橋になっていて、熊などが木道を通り抜けられる・
木道脇に設置されている熊の注意板や鐘など゛ともに　熊と人が遭遇しない工夫がなされている。

湿原の向こうに　今日の宿泊東電小屋がみえる　　2013.6.16.　2:00

《　荷物を預け　東電小屋から新潟･福島の県境の谷　只見川の流れに沿って　平滑の滝へ　》

東電小屋の北側の森には　只見川沿いの渓谷に素晴しいブナの森が広がっていました



橋を渡ると燧ケ岳の広い裾野に広がる湿原　赤田代に出て、燧ケ岳を背に広い尾瀬ケ原の東部分見渡せる

只見川沿いの谷 と 南の尾瀬ケ原 見晴との分岐　　見晴へちょっと寄り道

↓只見川 新潟 / 福島県境　　背後に燧ケ岳

(赤田代T分岐)　　(尾瀬ヶ原 下田代)　　↓見晴

温泉小屋･三条の滝へ← ↓ →見晴へ

赤田代　T分岐

尾瀬ヶ原の東の端　見晴

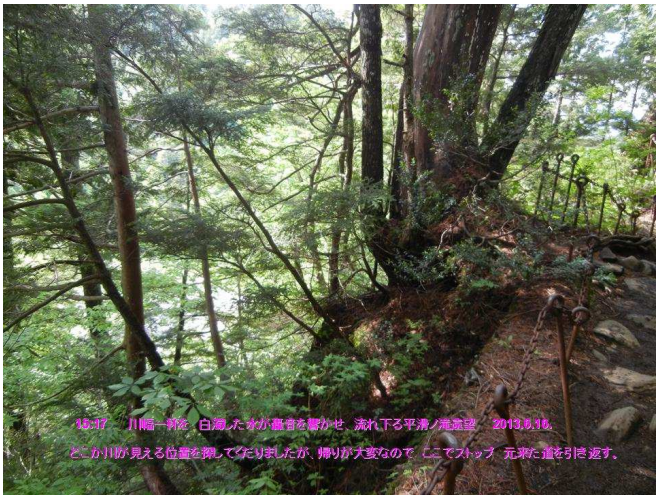
下田代の向こうに　尾瀬ケ原全体がみわたせ、　右端に残雪の至仏山も見える

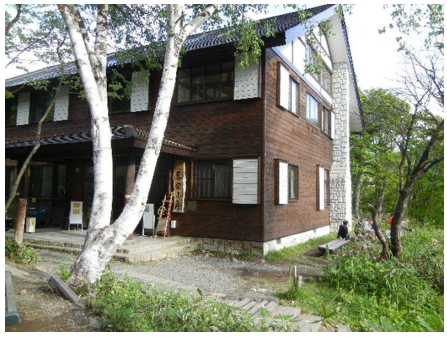
正面に見晴の建物がみえてきた　**2013.6.16.**

山小屋が立ち並ぶ尾瀬ヶ原の東端《見晴》　この奥へ燧ケ岳-尾瀬沼への道が続く

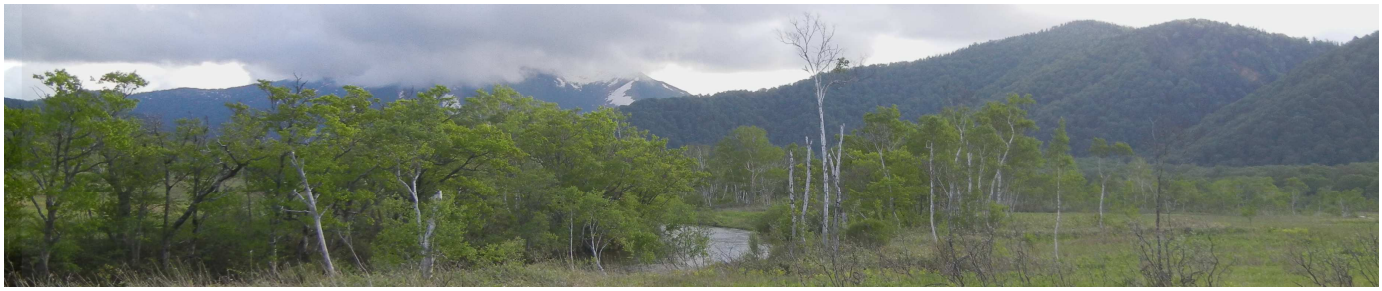
見晴から　西に広がる尾瀬ヶ原全体を眺める　2013.6.16

《　赤田代に戻って　只見川沿いの谷を温泉小屋･平滑の滝へ　》





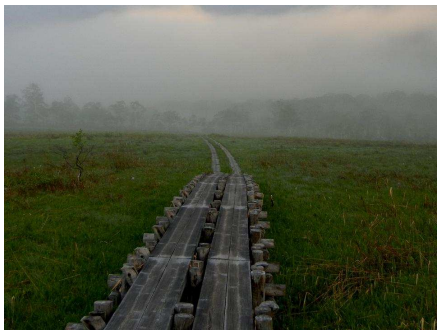
《 暮れてゆく尾瀬ケ原 東電小屋より 2013.6.16.夕 》



小屋の前で　刻々変化して暮れゆく尾瀬の夕景を楽しむ

尾瀬の夕景を楽しみながら　今日はこの東電小屋で一泊
観光シーズンで尾瀬ケ原の山小屋はツアー客で満杯でごったがえしているが、尾瀬ケ原の本道から外れた景鶴山の麓の森にある東電小屋は満員ではあるが、静かなもの。
私も別館の2段ベットが4つ入れられた相部屋ながら一宿泊は私一人の個室が確保できました。

2. 2013.6.17. 夜明けの尾瀬ケ原　　朝霧に包まれた東電小屋周辺の散策



ヨッピの川の川霧をも期待したのですが、川霧はありませんでした

湿原の草の頭を白くしているのは蜘蛛の網が原因か???
事実だとすると、人の入らぬ湿原には無数の蜘蛛がいるようだ

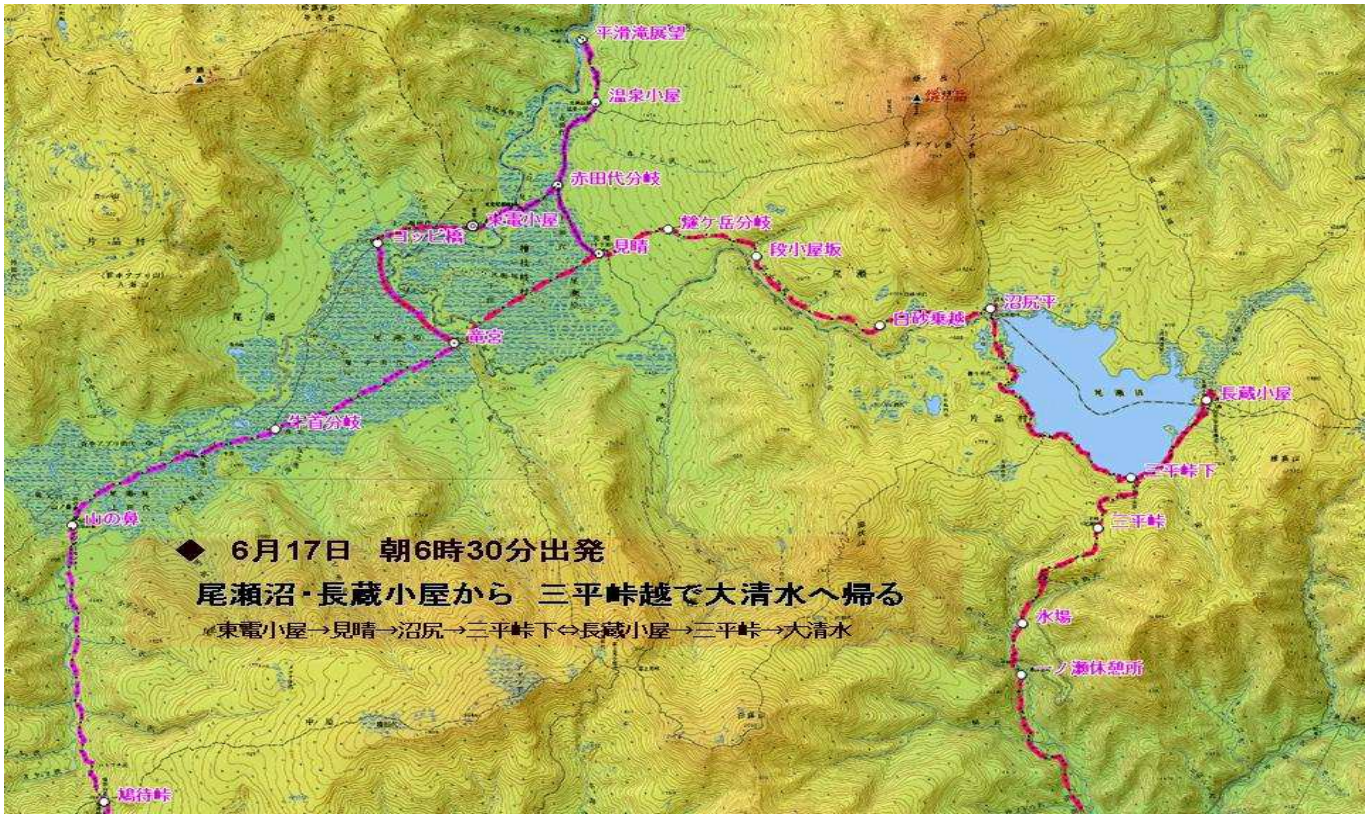
朝霧が随分薄くなってくると　湿原の表情がよく見えてくる　2013.6.17.
湿原の草の頭に夜露がついて白くなって　押し寄せてくる白い波のようになっている
霜がおりたのなら　原全体が白くなるのですが、　蜘蛛が草の間にかけた網に夜露がついて
それが白く光っているようだ。 早朝日が昇るまでの光景のようだ

樹木の新芽にも水滴がいてこんな景色に

レンゲツツジの枝にこんな立派な蜘蛛がかかっていました

5:45　尾瀬ケ原の朝の景色　早朝の散策から戻って
朝日に小屋の影が湿原に映し出され、至仏山の頂上も見え出した
6時の朝食を済ませて　出発だ

3.　6月17日　尾瀬ケ原から尾瀬沼へ　尾瀬ケ原から尾瀬沼へ出て　三平峠から大清水へ下る



《　6 月 17 日　尾瀬ケ原から尾瀬沼へ　尾瀬ケ原中央を横切って　竜宮へ　　》

朝 6 時 30 分東電小屋を出発して　朝霧の漂う尾瀬ケ原竜宮へ戻って　そこから尾瀬沼へ向かう

ヨッピ吊り橋→竜宮 尾瀬ケ原中央の景色　2013.6.17.

ヨッピの吊橋から 竜宮　十字路に出て　　まだ７時前　尾瀬ケ原に人影なし　2013.6.17.

逆光でシルエットしか見えない燧ケ岳へ向かって歩く　竜宮小屋の森を通り抜けて見晴らしへ

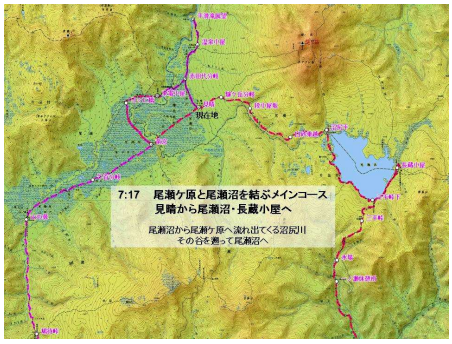
東の見晴へ向かうとすぐ、尾瀬沼から流れ下ってきた沼尻川が竜宮小屋のある森を流れる　20130.6.17.

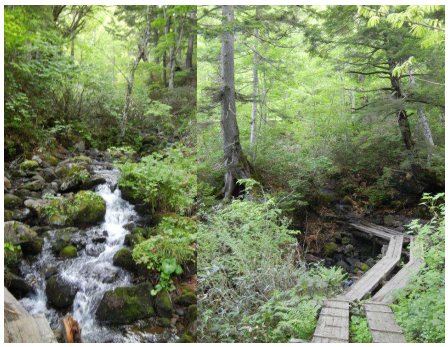
逆光で燧ケ岳が霞っているが、 雲ひとつない快晴

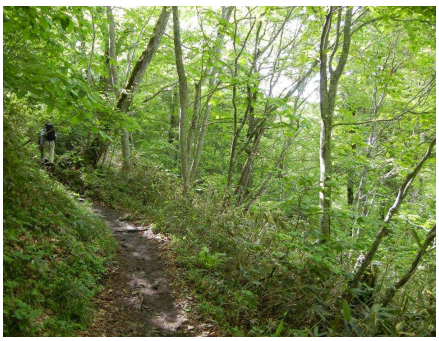
2013.6.17.竜宮→見晴で

燧ケ岳の麓の林の中に見晴の建物が見えてきました

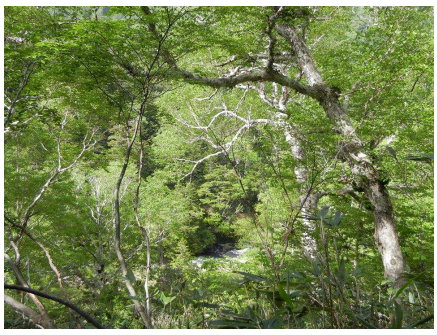
《　見晴から尾瀬沼へ　沼尻川が流れ下る谷を遡って　尾瀬沼へ　2013.6.17.　7:17　》







《　谷筋が明るくなって　木道に残雪　沼尻川の瀬音が大きく聞こえてくると白砂乗越（白砂峠）周辺　》



尾瀬ヶ原側と尾瀬沼側を隔てる白砂峠　2013.6.17.

白砂峠を越えるとまもなく尾瀬沼への入り口　白砂田代　まだ尾瀬沼は見えないが周囲の森の景色が素晴しい

《　白砂田代湿原で　》

静寂に包まれた森と池塘　そして初夏の緑の濃淡の美しさには　思わず東山魁夷の世界だと　2013.6.17.

百砂田代を抜けると又森の中 この周辺 ピンクのツツジ（ムラサキシオツツジ）が美しい 2013.6.17.

ピンクのツツジ（ムラサキシオツツジ）が美しい 2013.6.17.

《　森を抜けるとパッと視界が開け、目の前に尾瀬沼　沼尻平にでました　2013.6.17. 8:52　》

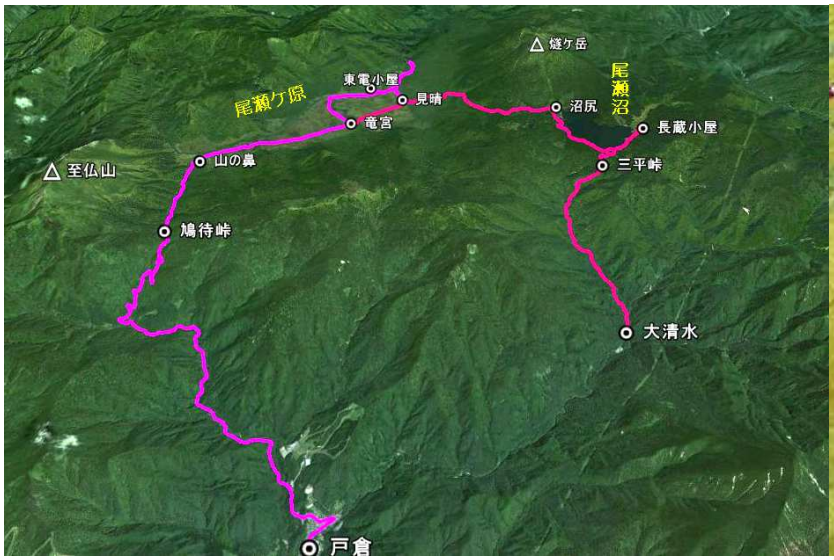
東側から眺めた沼尻平　左に尾瀬沼の岸にある休憩所　右の木道の先が白砂峠

正面南　尾瀬沼

東側

北側　燧ケ岳

沼尻平からながめる燧ケ岳　　2013.6.17.



《　沼尻から　燧ケ岳を眺めながら　人の少ない西湖岸の木道を通って長蔵小屋へ　9:00　》

次はいつになるかわからぬので、平野さんの長蔵小屋は是非見て帰りたいが、記憶にある大清水までの道は遠くて長い。　切符を取っているので　長蔵小屋から沼山峠を経て会津側へはくだらない。

コースタイムは今のところ順調なので goo。　でも　2 時過ぎには三平峠へ登らないと大清水を経て神戸までは帰れない。　水芭蕉と燧ケ岳を眺めながらの Walk　時間を気にしつつ、湖岸の木道を長蔵小屋へ

西湖岸の木道をしばらく行くと富士見峠への分岐　小屋で今は行きがあるので進めないと聞いた道との分岐

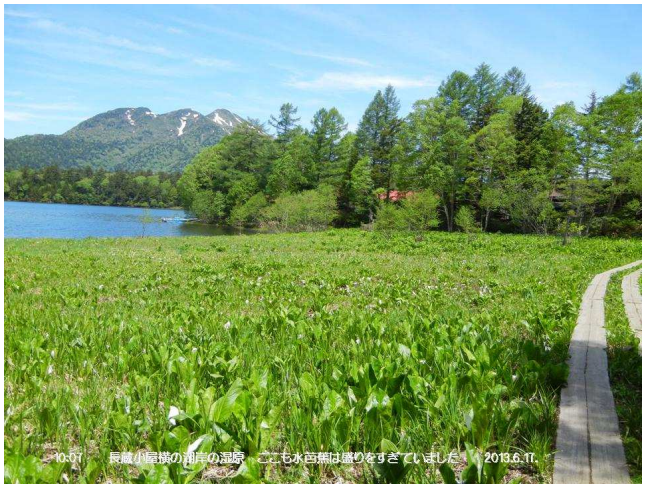
富士見峠への分岐周辺から尾瀬沼の向こうに燧ケ岳がくっきりと　　2013.6.17.

三平峠下周辺から眺めた燧ケ岳　2013.6.17.

長蔵小屋周辺で　2013.6.17.

《　尾瀬沼　長蔵小屋　　頭にある印象とは違う長蔵小屋の横に出る　10:07　》

頭にあるのは会津側　大江湿原側から見る長蔵小屋とは随分ちがう。　こんな樹木につつまれていただろうか‥‥と。



長蔵小屋から眺める燧ケ岳　2013.6.17.

長蔵小屋から元の三平峠下へ戻る途中で眺めた草花

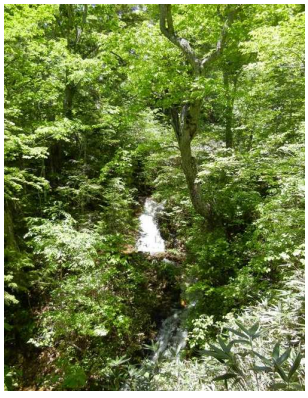
《　三平峠下に戻って　三平峠から大清水へ　　10:25　》

つづら折れの木道階段道を何度か折れるとあっけないほどで　三平峠にたどり着く　　2013.6.17.

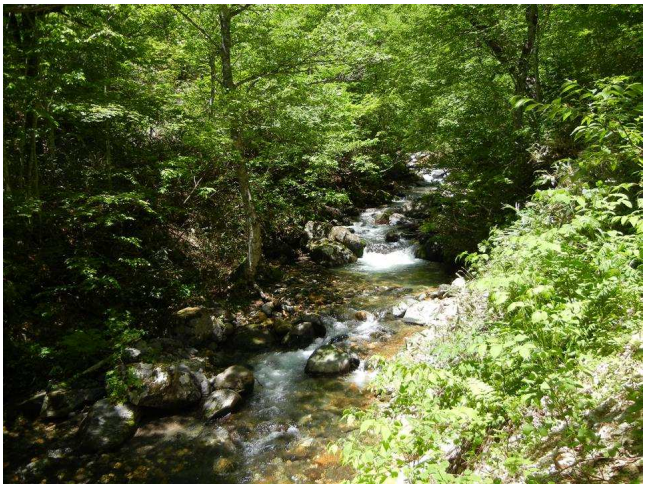
尾瀬沼から大清水へ下る峠　三平峠　2013.6.17.　10:55　　ここからは大清水まで長いくだり道

峠を越えると群馬県側の山々が見え、深い谷に随分高地にいることが知れる。　2013.6.17.

急なくだり道を谷底へと降りてゆく　道はよく整備されているがきつい



山腹のトラバース道から谷筋へ降りるきつい下りに変わるともう里も近い　2013.6.17.



足には本当にきつい三平峠からの悪戦苦闘の約１時間　やっと市ノ瀬休憩所
やれやれである。　でも　ここからはまた、大清水まで１時間の車道歩きが続く

時間的には余裕が出てきたので、川の瀬音を聞きながら大清水へ下る

12:30　約 45 分ほどで　大清水の登山口に下山　一つ前のバスに乗れそう　2013.6.17.

12:30　大清水到着

12時55分上毛高原行　一本早くバスに乗れる　急いで着替えをして　蕎麦を食べてバスを待つ

4.　6月初夏　尾瀬で出会った草花　と　尾瀬の森

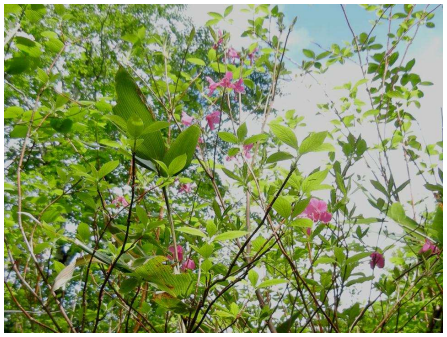
東京へ出かけた機会に久しぶりに水芭蕉が見たくなって尾瀬へいってきました。
水芭蕉の季節にはちょっと遅かったのですが、梅雨時ながらラッキーなことに晴天に恵まれ、水芭蕉をはじめ、湿原に咲く初夏の数多くの草花に出会えました。

また、念願の尾瀬ケ原の中での小屋泊　ビールを飲みながらの夕景・朝もやの中刻々と変化する尾瀬の景色　尾瀬の中でのゆっくりとした時間もすごせて、満足の尾瀬歩きでした

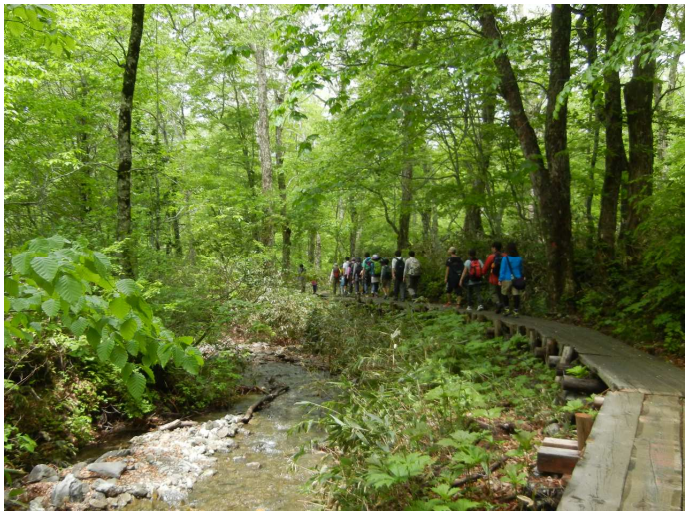
尾瀬で見かけた
初夏の花
2013.6.16.&17.

尾瀬で見かけた初夏の花　【1】　2013.6.　16.&　17.

尾瀬で見かけた初夏の花　【2】　2013.6.　16.&　17.



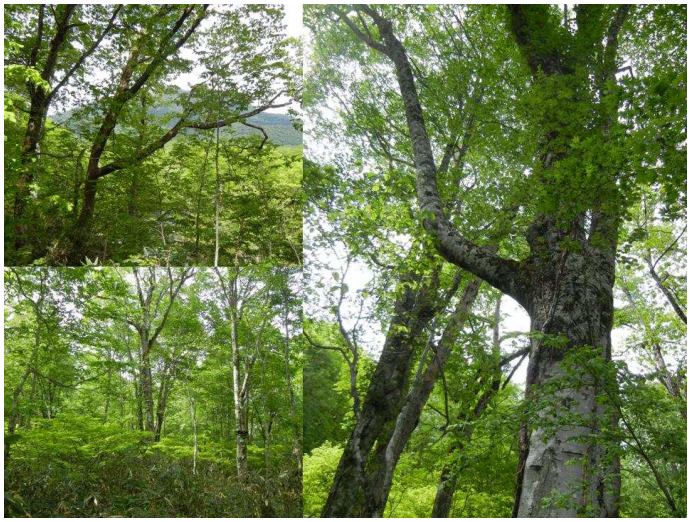
尾瀬ケ原・尾瀬沼 Walk の森

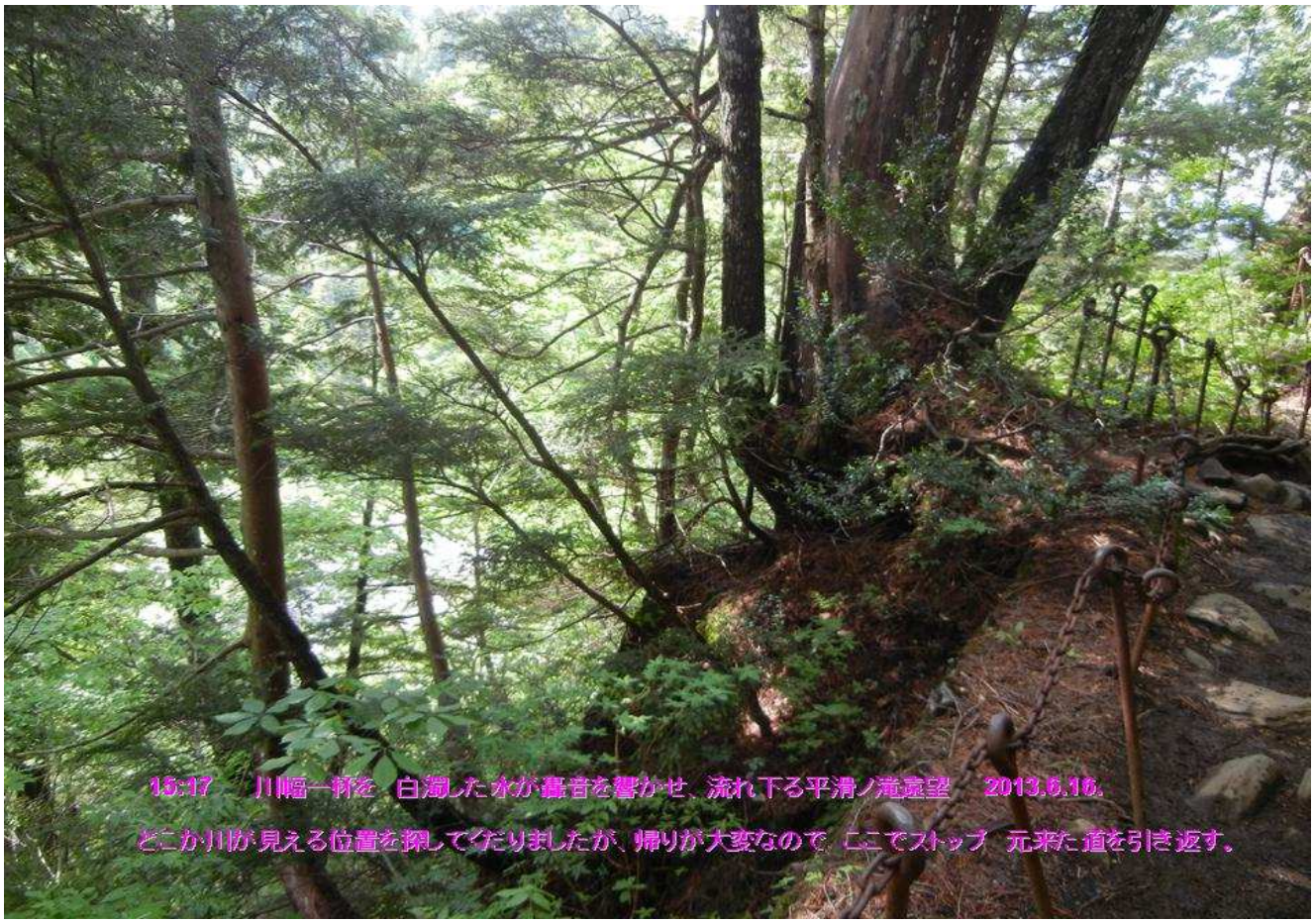


鳩待峠-山の鼻　川のせせらぎを聞きながら柔らかい緑の森が続く　　2013.6.16.

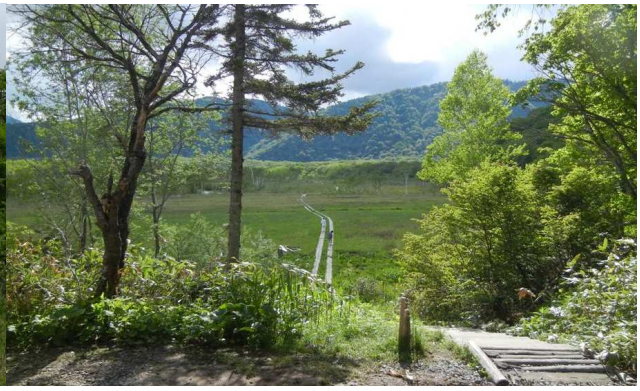
尾瀬ケ原　山の鼻　2013.6.16.

尾瀬ケ原　ヨッピの林　　2013.6.16.





只見川が流れる景鶴山山麓のブナの森　　2013.6.16.



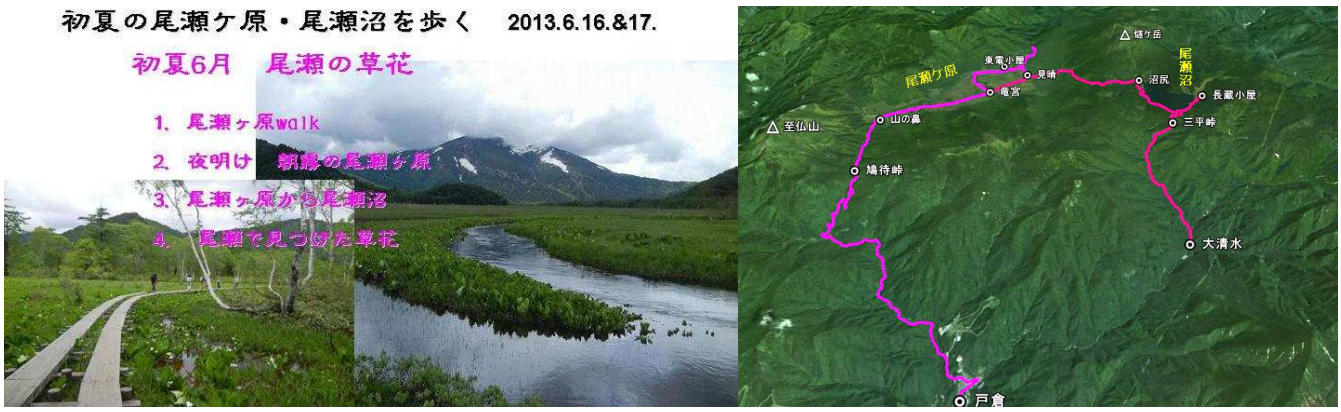
尾瀬ケ原　竜宮小屋の森

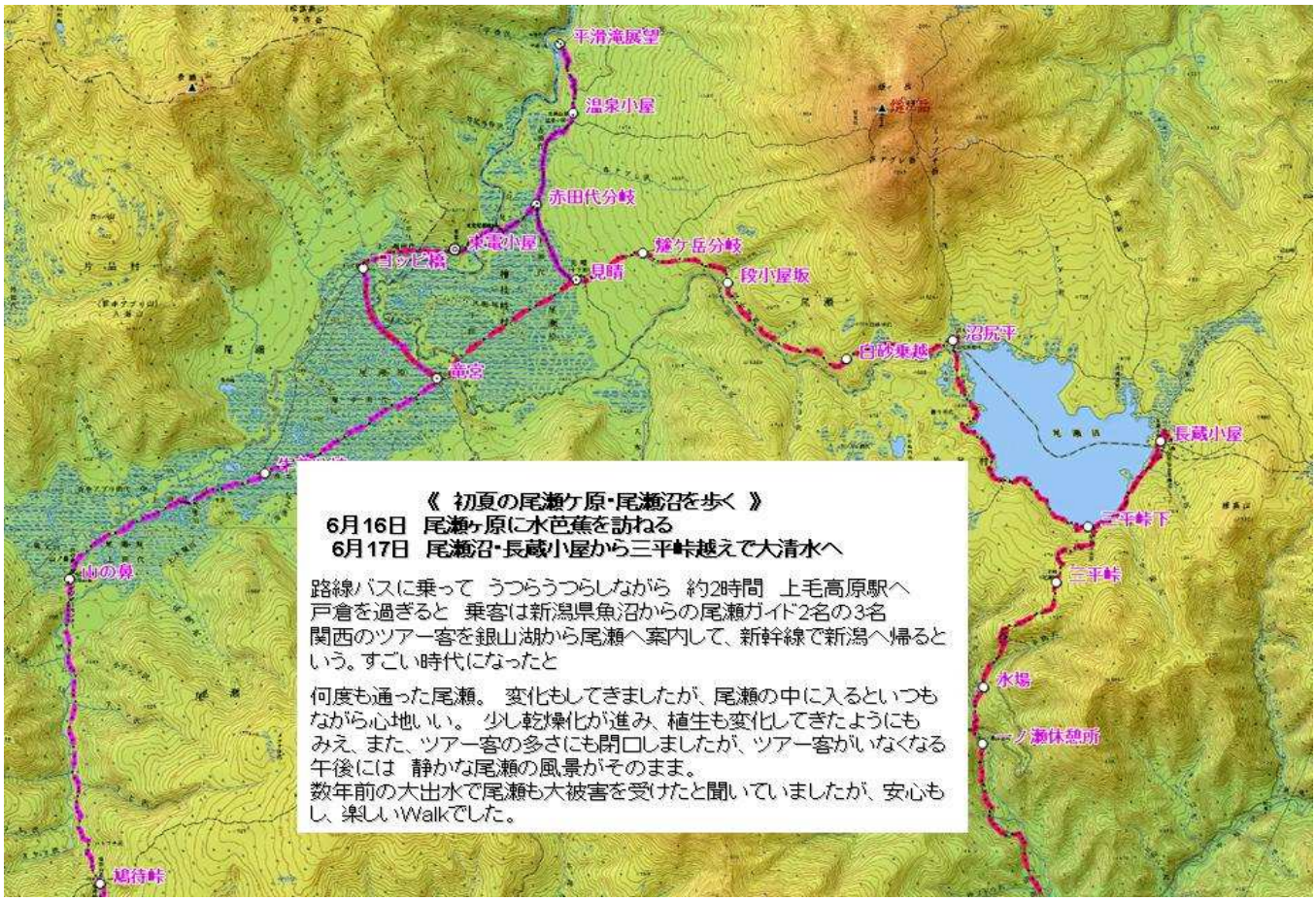
尾瀬ケ原から尾瀬沼へ抜ける燧ケ岳山腹 段小屋坂周辺　2013.6.17.

尾瀬沼　白砂田代湿原で　2013.6.17.

尾瀬沼　西岸の木道　　2013.6.17.

三平峠から大清水の山腹で　　2013.6.17.





【参考】　【風来坊　Country Walk】尾瀬ケ原・尾瀬沼

1. 尾瀬の秋　紅葉の尾瀬ヶ原　　上越側　鳩町峠から会津側御池小屋へ　　1990.10
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/mnyama02.pdf
2. 夏の尾瀬　尾瀬沼・尾瀬ヶ原　　2000.7.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/mnyama03.pdf
3. 初夏　水芭蕉の尾瀬　探勝　　2001.6.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/mnyama07.pdf